ホンモロコの試験養殖について

とりまとめ：青柳敏裕

農村，特に中山間地域では，しばしば高齢化や過疎化，減反等により，休耕田や耕作放棄地の発生が問題となる。中山間地域では質の良い用水が周年確保できる可能性もあり，遊休地の養魚活用が期待される。

水田養魚の主な対象は，コイ，フナ，ドジョウだが，本県ではいずれも需要が乏しい。

そこで，関西で市場価値の高いホンモロコを導入し，休耕田の養魚活用の普及を図ることを目的に，養殖業者による事業規模での試験養殖を行った。なお、試験にあたり、埼玉県農林総合研究センター水産支所からホンモロコ受精卵を分譲頂いた。記して厚くお礼申し上げる。

結果

試験成績を表 1 に示す。4 月 23 日に導入した受精卵をコンクリート池で井水管理（水温 14℃）したところ、4 月 30 日から 5 月 3 日にかけてふ化した。5 月 3 日にふ化仔魚推定 10 万尾（取り揚げ時のへい死から推定）を施肥池に放養し、10 月末まで 6 ヶ月間の給餌飼育を行った結果，400Kg（平均体重約 6g，6 万尾）の水揚げが得られた。8 月までに 4-5g に達し成長は良好であったが、飼料効率は先進県事例の 2/3 と低く生産性の向上が課題といえる。飼料効率低下は主に飽食給餌の影響と考えられる（米糠併用は 8 月以降）。

なお、淡水魚の食習慣に乏しく，ホンモロコに馴染みのない本県では販売単価は 1,600 円とふるわず（表 2），期待ほどの収益は挙がらなかった。需要喚起、販路・販売方法の工夫も課題と考えられた。

表 1　試験養殖成績

	試験養殖	先進県事例（参考）
養殖池面積	5a	10a
導入卵数	20 万粒	45 万粒
ふ化率	70%	60%
放養尾数	100 千尾（推定）	270 千尾
放養密度	200 尾／㎡	270 尾／㎡
飼育期間	178 日	150 日
取揚重量	400Kg	400Kg
平均体重	6.3g	2.5g
取揚尾数	63,500 尾	160,000 尾
生残率	45.3%（ふ化数 14 万尾に対して）	60%
給餌量	980Kg（うち配合飼料 800Kg，米糠 180Kg）	667Kg（配合飼料）
飼料効率	40.8%	60%

先進県事例は，埼玉県農林総合研究センター水産支所の普及資料による

表 2　試験養殖収支

収入		592,000 円（@1,600 円×370Kg）
支出（概算）		381,000 円
種苗費	0 円	（試験のため無償譲渡。他県事例；0.18 円×20 万粒＝36,000 円）
飼料費	187,000 円	（配合飼料 800Kg 分。その他、無償の米糠を約 180Kg）
電気料	72,000 円	（養魚池の揚水ポンプ 6 ヶ月分）
資材等	122,000 円	（取揚・蓄用の網類 120 千円，ミジンコ培養用鶏糞 2 千円）

収益　211,000 円